# 再評価結果(令和2年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道·技術課 担当課長名: 奥村 康博

空港・港湾アクセス	事業	一般国道	事業	山口県
一般国道491号 下小月バイパス	区分		主体	1 1 1
自:山口県下 室:山口県下 関市が 至:山口県下 関市小月			延長	
至:山口県で、関市小月				1.7km
1 !				! ! :

## 事業概要

一般国道491号は、下関市長府を起点とし、長門市油谷に至る、延長約53kmの陰陽を連絡する幹線道路であるとともに、中国縦貫自動車道や国際拠点港湾下関港へのアクセス道路として重要な道路である。

しかしながら、才川交差点から小島交差点間の現道は、下関市街地から小月 IC や下関市北部間を移動する交通が集中するため、慢性的な交通渋滞や事故が発生しており、主要渋滞箇所が 4 箇所、事故危険箇所が 3 箇所指定されている。

このため、当該区間のバイパス整備を行うことにより、安全で円滑な交通を確保するとともに、広域交通拠点との連絡を強化し、物流の効率化を図るものである。

H 2 5 年度事業化	都市計画	i決定なし	H 2 6 年	F度用地着手	H264	年度工事着手	
全体事業費	約71億	意円 事業進	捗率	3 4 %	供用済延長	(	O km
計画交通量 1	11, 800	0台/日					
費用対効果 B/C	糸	総費用 (残	事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年	
分析結果 (事業全体)			37/66 億円		95/95 億円	令和元年	
1.	4	事 業 費	: 33/62 億円	走行時間短縮	便益: 82/82 億円		
(残事業)		維持管理費	: 3.7/3.7 億円	走行費用減少	便益: 10/10 億円		
2 •	6			交通事故減少	便益:2.6/2.6億円		

# 感度分析の結果

(事業全体) 交通量 : B/C=1.2~1.7(交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C=2.2~3.0(交通量±10%)

事業費 : B/C=1.4~1.5(事業費±10%) 事業費 : B/C=2.3~2.8(事業費±10%) 事業期間: B/C=1.3~1.6(事業期間±20%) 事業期間: B/C=2.3~2.8(事業期間±20%)

## 事業の効果等

## 地域産業の活性化

・周辺企業から中国縦貫自動車道小月ICや国際拠点港湾下関港(長府地区)へのアクセスが向上し、物流の効率化により、地域産業の活性化が期待できる。

## 緊急輸送道路機能の強化

・下関市北部から第三次医療施設「関門医療センター」への搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与する。

# 関係する地方公共団体等の意見

当該道路は、「下関市都市計画マスタープラン(平成22年から令和7年)」に整備を促進する道路として位置付けられているとともに、毎年、下関市から早期整備の要望がある。

また、当該事業は、地域住民とともに道路計画を検討してきており、事業の必要性について、地域住民の理解が得られていることから、地元住民は事業に協力的であり、事業推進にあたっての協力体制が整っている。

#### 事業評価監視委員会の意見

令和元年度山口県公共事業評価委員会(R1.9.2)において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。

# 事業採択時より、再評価実施時までの周辺環境変化等

## 【山陰道】

〇一般国道 491 号 俵山・豊田道路:平成 28 年度に事業着手

〇一般国道 191 号 木与防災 : 平成 29 年度に事業着手

## 【一般国道2号】

〇 一般国道 2 号 小月バイパス : 平成 29 年 4 月に 4 車線で供用開始

# 事業の進捗状況、残事業の内容等

用地取得率:約98%(面積ベース)、事業進捗率:約34%

盛土工、橋梁工の進捗を図り、早期完成を目指す。

# 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

残る用地取得を継続するとともに、早期開通を目指し、改良工事を推進していく。

# 施設の構造や工法の変更等

・大規模な盛土工を実施するため、他事業から現場発生土の流用を積極的に行い、事業費の低減を図る。

## 対応方針事業継続

## 対応方針決定の理由

以上の状況を勘案し、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

#### 事業概要図





凡	凡例				
	供用中				
	再評価箇所				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。